

令和 3 年12月

# 青 藍 会 会 報

第 98 号

徳島大学医学部医学科同窓会

写真題目：「蝉・桜と私」(31頁)  
作成者：太田 房雄  
画素数：3.7MB  
ファイル名：JPGファイル  
作成日：2021年7月29日  
カメラ：Nikon COOLPIX950  
色素間：RGB  
カラープロファイル：sRGBIEC61966-2.1  
焦点距離：26.2mm(手動焦点)  
F値：f/4.5  
露出プログラム：標準  
露出時間：1/60秒

# 信賴

滋慶医療科学大学大学院  
教授 木内 淳子



# 2021年度 青藍会賞募集

青藍会では学術研究の発展と奨励のために  
青藍会賞を設けています。

**若手研究者の応募をお待ちしています!!**



**応募締切 2022年1月24日（月）**

詳細は21ページをご覧ください

## 育つ力・育てる力

—頑張りの回路にスイッチを入れる—

青藍会愛媛支部長

久野 梧 郎 (医学部15期)

大学は人が集まり、知識を吸収し、共に議論し、新しい課題に挑戦し、そして巣立っていく場所である。最低4-6年、長ければ一生をその地で過ごすことになる。同窓の人達にとって徳島での生活が後々振り返って「お世話になった」「有意義で夢を与えてくれた」と思えるなら大変幸せなことであると思う。巣立った人達が日本全国で、また世界の中でいろいろな形で活躍している状況が存在することは同窓会員としての誇りとなり自信を深め、さらに活動する原動力になる。青藍会報97号には徳島大学医学部出身者の教授一覧表が掲載されている。母校、他大学を含めて現時点で実に95名の教授が誕生しており、教育者として研究者、指導者として活躍していることがわかる。私は昭和38年第15期生として入学したが当時は母校出身者の教授は解剖学の大黒教授、皮膚科の武田教授など数名と記憶する。ここに至るまでには御本人の資質と向上心、また指導者のよき導きがあつての結果であることは間違いのないことであろう。他の大学のことは調べていないが、少なくとも地方の大学としては「よく頑張っている」との確信を与えてくれる事実である。教授というのは1つの例であり、他のいろいろな position でも多くの同窓生が活躍していることを思わせる。徳島大学には伸びる力と環境があるように感ずる。医学部からではなかったが工学部からは「光」に関してエジソンの発明を塗り替える仕事をしてノーベル賞に輝いた中村修二教授（現カリフォルニア大学）も誕生した。このことは大学全体に大きな自信と誇りを与えた。ではどのようなことが人を育て、育つ力を与えるのか。

学生時代に経験したことで記憶に残っていることは人様々であると思うが、私の記憶の中に positive な印象として残っているものがいくつかある。教科書的な授業の中にもご自身の研究内容や今後の問題点などをちりばめた講義は何かしら前向きの印象を感じさせた。酵素研究所の先生方の印象も強い。荒縄を腰に巻いて教壇に立った教授や上半身裸で図書館横の空き地で真剣を振り回していた教授の姿は研究者であると同時にエネルギーで衝撃的で「オーやるな」と思わず笑みが浮び、思考回路に活が入った思いが残っている。そんなこともあり私は学生時代酵素研で定期的にかかれた英文の文献の抄読会に参加していた。当時読んだ TCA サイクルに関する文献は今でも糖尿病の患者さんを診察するときの基礎知識として頭に浮かぶ。時代の変遷による影響も大きいものがあつた。私達の世代は医学紛争がそれに当たる。卒後研修として続いていた「イン

ターン制度」が役に立っていないとして廃止になり、当時青年医師連合（青医連）のもとで自分の研修は自分でアレンジする形となった。私の場合郷里である松山に近い八幡浜市立総合病院に行くことになった。もともとは京大系の病院であったが京大から人は来ず、徳島に声が掛った形であった。その病院にとっても初めてのことであったと思うが、かなり周到な計画を立てて頂いたようで、それに乗って医師としての厳しかったけれども良いスタートが切れたとの思いが残っている。半年間で50例の各種内科疾患を担当し、退院サマリーのチェックを受けた。その間の1つのエピソードとしてフィラリア糸状虫の患者を見つけ、保健所に報告、新聞にも報道された。その後徳島に帰り呼吸器を勉強するために板西療養所（現東徳島病院）に就職しその流れで結核行政の中心的役割を果たしていた東京清瀬の財団法人結核研究所の長期研修に参加できた。そこでは肺の病理標本と同一患者の生前のX線断層写真が多数保存されており、病理を背景とした読影実習はその後の呼吸器疾患を見る時の基本となった。その時講義や実習で会った結研・癌センター・心研（女子医大）の先生方の力強い姿も印象深かった。昭和46年東京での研修中に徳島大学に第3内科が開講となり、翌47年1月付で大学に帰ることになった。現在の青藍会館に接した兵舎を改造した正に0からの出発であった。初代螺良教授は大阪人らしく「おおらかな人格」の先生であった。後年がん転移の研究のためにアメリカに行けと言われ渋った私に「四の五の言わず行ってこい」と背中を押してくれワシントン郊外でFidler博士のもと家族共々2年間を過ごした。このことは結果的に広い世界を見て、広い視野で物事を考え判断できる意識の変革が私の中で起こったことを後々気付くことになった。

私は今までの人生でいろいろな場面で人を育てようとする先生方に出会っている。人が育つためには知識の蓄積は必要であるが仕事をし続けるためには情熱が必要である。人を育てる人は自らも育つ力を持つ人であり、その姿が周囲の人の心にも努力する情熱のスイッチを入れているように思う。育つ力、育てる力は伸びる力、伸ばす力である。よい流れの中に人を乗せてやることも大切である。「ほめてやらねば人は育たず」との山本五十六の言葉も名言と思う。青藍会という医学部同窓会の役割は大学発展の「緑の下の力持ち」になることである。同窓会として何をすれば人の心を突き動かせるのか、課題は多いが、皆で考え行動を続けることが大学の発展につながると信じている。

# 目 次

○題 字	木 内 淳 子
○写 真	太 田 房 雄
○2021年度青藍会賞募集	
○巻 頭 言	久 野 梧 郎
○令和3年度青藍会総会（ハイブリッド開催）	1
青藍会会長挨拶	荒 瀬 誠 治 1
医学部長挨拶	赤 池 雅 史 3
議事要録	4
支部報告	4
事業報告	9
会計報告	11
学術講演抄録	篠 原 尚 15
2020年度青藍会賞選考過程について	安 友 康 二 18
2020年度青藍会賞受賞講演	原 田 武 志 18
○2021年度青藍会賞募集	21
○青藍会の助成活動	
卒後臨床研修センターの活動報告	安 倍 正 博 22
○元徳島大学長 香川征先生ご逝去	23
	玉 置 俊 晃 24
	金 山 博 臣 24
○支 部 だ よ り	
北 海 道 支 部	石 丸 裕 晃 26
東 京 支 部	濱 本 恒 男 26
広 島 支 部	濱 脇 純 一・堤 保 夫 27
兵 庫 支 部	檜 林 勇 28
○会 員 通 信	
肝内胆管細胞癌の予後を良くする方策について	田 代 征 記 29
眉山逍遥の歌	久 野 梧 郎 30
蝉・桜と私	太 田 房 雄 31
Covid-19 に対する徳島大学の貢献	板 東 浩 31
17期生の同窓会は、さらに延期します	村 澤 正 甫 32
Covid-19 の闘いの中で	本 田 壮 一 33
渡辺恒明君を偲んで	國 重 昭 郎 34
俳 句	小 谷 雄 二・栗 俊 一・駒 木 幹 正・真 鍋 正 広 36
○徳島大学の動き	
徳島大学大学院医歯薬学研究部新任教授紹介	脇 野 修 37
	森 野 豊 之 38
	滝 沢 宏 光 39

	吉川幸造	40
	新家崇義	41
徳島大学病院新任教授紹介	板垣大雅	42
○準会員だより		
6年目の新生活	加島嵩之	43
医学科二年目の生活	姜泰成	43
○青藍会の動き		
教授就任のご挨拶	大林茂	45
病院長就任のご挨拶	谷田信行	46
	西角彰良	46
	橋口修二	47
	加藤真介	47
	葉久貴司	48
青藍会人事（評議員名簿・支部長名簿・役員名簿・委員会名簿）		49
事務長就任のご挨拶	小西竹生	53
会員の異動（令和3年10月1日現在）		54
物故者		55
青藍会会費納入状況		56
会費納入のお願い		57
事務局からのお願い		58
○投稿規定		60

## 第38回青藍会・医学科講演会の開催中止について

令和3年7月、徳島大学が蔵本祭の開催を中止したことに準じ、  
青藍会・医学科講演会の開催も中止することとなりました。

ご報告申し上げます。



# 令和3年度青藍会総会（ハイブリッド開催）

令和3年度青藍会総会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ハイブリッド開催といたしました。総会当日の内容をご報告申し上げます。

## I 開会宣言

副会長

大 申 文 隆（医学部24期）

ただいまから令和3年度青藍会総会を開催いたします。なお、本会は評議員会及び支部長会議もかねております。開会に当たりまして荒瀬会長からご挨拶を申し上げます。

## II 会長挨拶

青藍会会長

荒 瀬 誠 治（医学部20期）

おはようございます。本日は総会にご参加いただきありがとうございます。今回は青藍会館での会場参加と各地からのリモート参加のハイブリッド形式の総会になりました。良かった点は、今まで距離的・時間的な制約で総会に参加できなかった評議員の先生方が、リモートで多数参加されるようになったことです。是非にもご意見をいただきたく存じます。

昨年7月に私が桜井会長の後を引き継ぎ丁度1年たちました。この間の青藍会の動きで具体的に動いたものを報告します。本年5月に、徳島県医師会長



荒瀬誠治会長挨拶

より「徳島県のコロナ医療業務、ワクチン接種担当医療者」募集を手伝っていただけないかとの要請がありました。会長の一存で了解し、徳島県在住の62才以上の会員に青藍会からの言葉を添えて要請状を送ったところ、自由度が高い先生方が参加してくださり、公的医療業務、ワクチン接種他が無事に行われました。青藍会本来の趣旨とは違いますが、本会の持つ力が地域全体医療の一助になりえたと思っています。また本年1月より、小西竹生新事務長をお迎えました。それまで事務部門は河野知弘（20期）、高橋智津子（17期）の両先生にお任せしていました。お二人には最高のお仕事をさせていただき感謝の念を禁じえません。ますます煩雑になる業務内容、デリケートな個人情報の取り扱い、大学・各種組織・時には国相手の情報収集、他部局との付き合い、事務局運営の活性化等を考えた場合、プロの事務長が絶対に必要と考えていました。小西氏は徳島大学医学部事務から出発し、後年は岡大・阪大両病院の事務部長を勤められた真のプロで、上述の業務を軽々とこなされる上、青藍会が良き方向に向かうための情報を的確に知らせてくれる人でもあります。皆さまよりのご意見をきちんとお聞きし、間違いなく青藍会の中でいかすために頑張ってくださいるので頼りにしていただければ幸いです。

さて、3年前までの本会の財政状態は会の存続が危うくなるところまで追い込まれていましたが、桜井前会長らの改革<sup>\*1</sup>により、2年間で財政基盤は見事に立ち直りました。やっと青藍会設立の趣旨である『会員相互の親睦を厚くし、学術の向上を図り、もって母校の発展に尽くすことを目的とする』に則っての行動ができる状況になったと思います。私達もそれ<sup>\*1</sup>を踏襲してきました。

\*1：在校生への援助・青藍会案内の徹底と会費納入の強い要請、会報内有料広告の掲載会費納入法の簡略化、各支部を回っての支援・寄付の要請、学生会員家族への青藍会の活動報告と支援要請、各学年同窓会・名誉会員・個人への支援要請、他

ところが昨年から今年にかけ世の動きは一変、医学科学生の生活に大変化が起こり、講義はもとより卒業試験までもがリモートとなり学生が集まる機会



### Ⅲ 医学部長挨拶

#### 徳島大学医学部長挨拶ならびに現況報告

徳島大学医学部長  
赤池雅史（医学部31期）

青藍会の皆様には、いつも多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございます。

医学科では、最先端の研究領域への対応、社会医学領域の充実、臨床系分野の専門性と相互連携の強化の方針に基づき、苛原稔医歯薬学研究部長（医学部25期）とともに人事の迅速化に努めています。令和3年8月1日付で、救急集中治療医学分野に大藤純教授（医学部43期）、産科婦人科学分野に岩佐武教授（医学部48期）、薬理学分野に池田康将教授（医学部43期）、同年4月1日付で腎臓内科学分野に脇野修教授、同年6月1日付で遺伝情報医学分野に森野豊之教授が着任され、非常に活気が出ております。現在、胸部・内分泌・腫瘍外科学分野、精神医学分野、小児科学分野の教授選考中で、耳鼻咽喉科学分野の教授選考も開始予定です。

一方、新型コロナウイルス感染症は終息が見通せず、講義やPBLチュートリアルは原則オンラインとしています。系統解剖学実習は15週中4週がオンラインで、その他の基礎系実習は原則オンラインになりました。医学研究実習（研究室配属）の対面実施は従来の約半分である3か月半となり、臨床実習は診療現場での対面実施が65週中36週程度にとどまり、また、卒業試験もオンラインで実施しました。学生対象アンケートでは、自分のペースで繰り返し視聴し学習できることから、オンライン授業は対面と同等以上という肯定的意見が8～9割を占めて

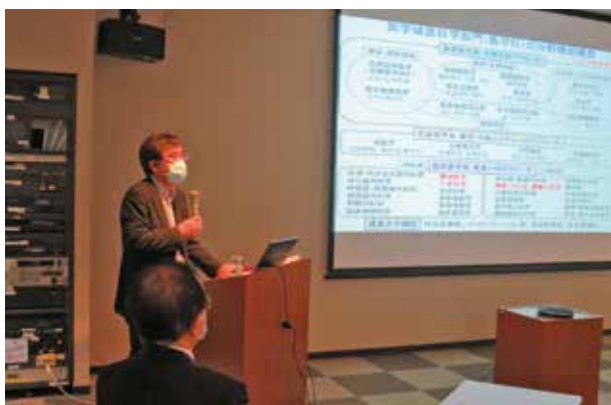
います。成績の低下もみられず、令和3年2月の医師国家試験では新卒合格率が98.1%（全国16位）で、記録が確認できる昭和53年（1978年）以降最高でした。

しかし、この結果は知識領域に関することであり、人と人の関わりの中で技能・態度領域を学ぶことの意義をあらためて問い直す必要があります。系統解剖実習では、青藍会からのご寄付で購入した3Dアトラス「ヒューマン・アナトミー・アトラス（Visible Body社）」を使用したオンライン実習とご遺体による解剖学実習を併用し、知識の理解と倫理教育の両立をはかりました。また、医学研究に興味のある低学年学生の課外活動として「スチューデント・ラボ」を実施しており、四国研究医学生は全員参加しています。さらに3年次の医学研究実習では、理工学部と連携して医工融合研究に取り組む学生も出ています。一方、シミュレータと未固定遺体を用いた卒前卒後一貫の実践型低侵襲手術トレーニングプログラムを実施しており、その拠点であるスキルラボやクリニカルアナトミーラボの拡充を含む「医歯薬学共創センター（仮称）構想」を申請中です。さらに、現在ワクチン接種が進んでいることから、医学教育分野別評価で改善事項として指摘された重要な診療科（内科、外科、精神科、産婦人科、小児科、家庭医療）での臨床実習期間の十分な確保に取り組んでいきたいと考えています。

コロナ禍においても、初代学長・医学部長の中田篤郎先生の碑に刻まれた「学者如登山」の精神を忘れず、学生、教職員一同、この危機を克服していく所存です。青藍会の皆様におかれましては、ご指導・ご鞭撻、ならびにご支援をどうかよろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、青藍会のますますの発展を祈念いたしまして、簡単ではございますが、医学部長のご挨拶とさせていただきます。

#### 【追記】

青藍会総会での上記報告の後、令和3年8月1日付で、胸部・内分泌・腫瘍外科学分野に滝沢宏光教授（医学部42期）、同年10月1日付で、精神医学分野に沼田周助教授（医学部46期）がそれぞれ着任されました。



赤池雅史医学部長挨拶













## 事業報告

令和2年度 事業報告（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

### [実施事業]

令和2年4月6日（月）

徳島大学医学部医学科新入生歓迎会開催中止のため入学生114名に桜井会長のお祝いメッセージ、会報第93号、青藍会だより創刊号を贈呈

令和2年6月17日（水）

青藍会会報第95号発行（4,568部）

令和2年7月8日（水）

青藍会賞授与式開催（総会中止のため）

令和2年7月31日（金）

医学科への寄付

令和2年10月5日（月）

徳島大学病院卒後臨床研修センターへの寄付

令和2年10月22日（木）

第37回青藍会・医学科講演会開催中止（誌上講演）

「地域医療はおもしろい！」

講師 隠岐広域連合立隠岐島前病院 院長  
白石 吉彦 先生

令和2年11月29日（日）

兵庫支部総会に参加（荒瀬誠治会長、安倍正博教授、河野知弘先生）

令和2年12月10日（木）

青藍会会報第96号発行（4,680部）

令和3年1月4日（月）

医学科4年生に白衣授与・Student Doctor認定証授与式に出席（荒瀬誠治会長）

令和3年3月3日（水）

青藍会だより第2号発行（2,000部）

令和3年3月17日（水）

医学部67期生（108名）に記念品（カード型モバイルバッテリー、会報第95号、会報第96号、青藍会だより第2号、ようこそ青藍会へ、青藍の碑）贈呈

令和3年3月23日（火）

青藍会奨励賞授与（医学科6年次臨床実習後OSCE優秀者表彰）

### [会議開催]

令和2年4月22日（水）

財務健全化委員会（メール会議）

(1)青藍会会計収支一覧（平成22年度～令和元年度）について

(2)令和元年度青藍会収支決算報告（案）、令和2年度青藍会収支予算（案）について

(3)その他

令和2年5月15日（金）

役員会（書面会議）

(1)役員会・総会の開催について

(2)令和2年度青藍会収支予算について

(3)新事業について

(4)青藍会各支部への経費の支援について

(5)第37回青藍会・医学科講演会の開催について

(6)2020年度青藍会賞募集について

(7)経済的に困窮の学生さん支援について

(8)青藍会だよりアンケート回収状況

(9)その他

(10)青藍会人事について

令和2年5月21日（木）

広報委員会（メール会議）

(1)青藍会会報第95号の編集について

(2)青藍会会報第95号のホームページ公開・非公開について

(3)青藍会会報第96号（令和2年12月発行）の掲載内容について

(4)その他

令和2年6月10日（水）

令和2年度青藍会総会・評議員会・支部長会議（書面会議）

会議終了後の青藍会賞受賞者学術講演及び学術講演は中止（誌上講演）

令和2年8月24日（月）

役員会（メール会議）

(1)青藍会会報第96号の発行について

(2)青藍会だより第2号の発行について

(3)徳島大学同窓会連合会のニューズレター投稿への推薦者について

(4)医学科6年生に対する会費納入のお願いについて

(5)令和2年度卒業生への記念品について



## 学術講演抄録

### 臓器の隙間を科学する

兵庫医科大学上部消化管外科  
主任教授 篠原 尚（医学部35期）

#### はじめに

この度は母校、徳島大学青藍会令和3年度総会において学術講演の機会を頂き、誠に光栄に存じます。本日は卒業から32年間、私が消化器外科医として一貫してこだわってきた「臓器の隙間」についてお話をさせていただきます。

#### Bursa Omentalis との出会い

われわれ世代の徳大医学部生にとって、専1で臨む解剖学実習はとても大きなイベントでした。指導して下さった大黒成夫教授は非常に厳しい先生で、神経の一本一本まで丁寧に解剖し、スケッチすることを学生に課しました。入学時から外科医になると決めていた私にとって、大黒先生は医師として進む道を切り開いて下さった、恩師のお一人です。実習室のホルマリンの臭いが染みついたソボタ解剖学図譜を、私は今も大切に使っています。その一頁には、大綱を切り開いて胃を翻し、腹腔の中のもう一つの空間である網嚢腔、Bursa Omentalis を展開した図が載っています。卒業して5年後、私は1冊の本を出版しました。「イラストレイテッド外科手術」と題した本の第1章、胃をめぐる解剖の扉には、“ぶるざおめんたりす”という見出しで Bursa Omentalis との初めての出会いを記しています<sup>1)</sup>。本書はその後2度の改訂を経て中国語版、韓国語版に翻訳され、昨年英語版の出版に至りました<sup>2)</sup>。私が徳島大学で学んだ解剖学の知識は、手術を行う世界中の多くの外科医に役立っていると自負しています。

#### 切離と剥離による切除縁の決定

手術において、外科医は人体に一時的な侵襲を加え、その解剖構造を許容範囲内において変化させるリスクをとりながら、切除あるいは修復を行います。切除とは、生命の維持に不都合な組織、あるいは臓器を生体からとり除くことです。この行為において、切除縁は切ること、すなわち切離と、剥がすこと、すなわち剥離の2つの操作によって決定されます。

図1は胃癌に対する幽門側胃切除術の摘出標本です。表（おもて）面は光沢があり、全面が漿膜に覆われています。この漿膜は、腹腔という人体最大の腔を形成している腹膜の一部です。胃の裏には Bursa Omentalis があります。そこで標本を裏返して見ると、Bursa Omentalis の部分は光沢があり、漿膜に覆われています。しかしその周りには光沢のない部分があります。接地面からの剥離によって切り取った領域です。つまり、輪郭を切離するだけでは、胃の標本はとれてこないのです。胃癌の手術の出来栄を左右するのは、むしろこの剥離の方です。

#### 剥離可能層としての臓器の隙間

人体には二種類の「臓器の隙間」があります。一つ目の隙間、Space は、漿膜によって囲まれた無構造の空間です。外科医は切離することによって開放することができます。代表的な Space には、胸腔、腹腔、そして Bursa Omentalis があります。もう一つの隙間、Interface は、発生起源の異なる2つの

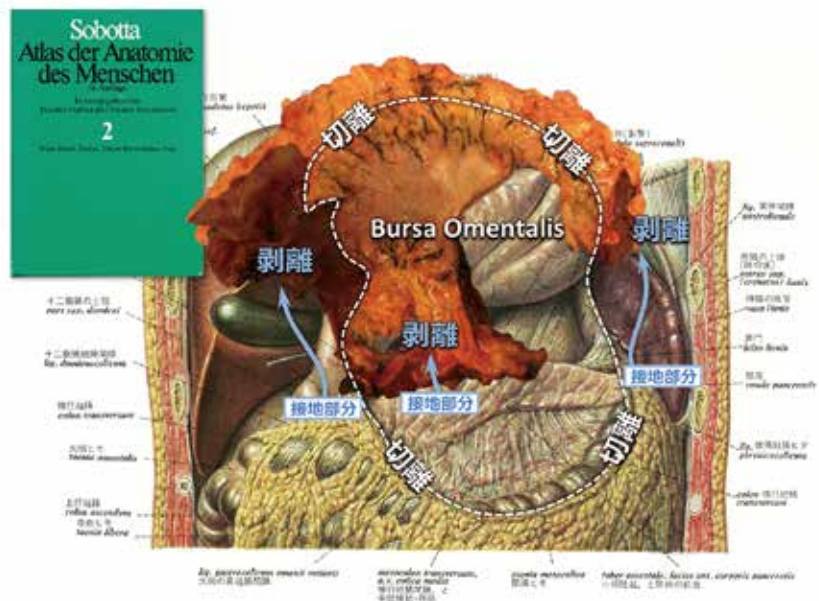


図1 ソボタ解剖図譜に重ね合わせた胃癌の切除標本

## 令和3年度青藍会総会（ハイブリッド開催）

隣接する組織の境界面です。外科医は剥離によって、この隙間を広げることができます。interfaceは疎性結合組織線維によって介在された、「剥離可能層」です。

粘膜に発生した癌が最初に遭遇する臓器の隙間は、粘膜と筋層との間に介在する、粘膜下層というinterfaceです。内科の先生方は、腫瘍の周辺の粘膜を切除し、さらに粘膜下層を剥離することによって標本を切除します。ESDという治療です。つまり、ESDでは粘膜が切除標的となります。その後粘膜下層を突破した癌は、リンパ管に入ってリンパ節転移をきたします。われわれ外科医が切除標的としているのは、担癌臓器とその領域リンパ節を含む“腸間膜”です。

大腸癌の手術では、腸間膜切除という概念はすでに一般化しています。1986年、イギリスのHealdは直腸間膜全切除という概念を発表し、そのカギとなる操作は、Mesorectumの背面にあるinterfaceを正確に剥離することだということを強調して、これをHoly Planeと呼びました。2009年、ドイツのHohenbergerは結腸間膜全切除という概念を提唱し、Holy Planeに相当するMesocolonの隙間を、Mesenteric Planeと呼びました。実は胃にも胃間膜、Mesogastriumという腸間膜が存在します。胃間膜はその発生過程において、体壁の腹膜や横行結腸間膜と3次元的に癒合します。一方、肝や脾、十二指腸から発生した膵といった実質臓器を内包します。発生を逆再生して胎生初期の状態に戻すと、胃癌の切除標的はあくまでも胃間膜であり、腹腔動脈を要とする扇形をしていることがわかります<sup>3)</sup>。では、Holy Planeに相当する、胃間膜のinterfaceはどこにあるのでしょうか。

### 胃間膜の隙間を利用した合理的な切除

癒合と内包によって、胃間膜には2種類の隙間が形成されます。まず体壁腹膜、あるいは他の腸間膜との癒合によりinterfaceが形成されます。これをfusion fasciaといいます。もう一つ、内包した実質臓器や血管をとりまくように、interfaceが形成されます。これをinvesting fasciaといいます。臓器によって厚みが異なりますが、膵

の周囲には、明瞭なinvesting fasciaが存在します。胃癌の手術では、これらのinterfaceを忠実に進むことによって、胃間膜を切除しています。剥離操作によって、それまでインターフェースの中にあつた結合組織線維は切離されます。それは残る側と切除した側に付着して被膜を形成し、双方の剥離面をコーティングします。切除した腸間膜の反対側の面は、Bursa Omentalisという別の種類の臓器の隙間に面しているため、もともと腹膜を被っています。こうして標的腸間膜は、腹膜、あるいは結合組織被膜でカバーされた、intact packageとして切除されます<sup>4)</sup>。

### AIによる臓器の隙間の可視化

このように手術の質を左右する“剥離”ですが、interfaceに存在する結合組織線維を正しく見極め、それを切っていく能力には、外科医の間でも残念ながら個人差があります。エキスパートと呼ばれる外科医たちは、瞬時に剥離に適した層をみつけ、展開し、線維を切っていきます。結果として出血の少ない、腫瘍学的にも安全な切除を行うことができます。われわれは最近、AIによるコンピュータビジョンを用いた手術支援システムの開発に取り組んでいます。手術ビデオを教材とした深層学習によって術中の解剖学的ランドマークをAIに画像認識させる研究を行っており、その一つとして臓器の隙間に現れる、結合組織線維のセマンティックセグメンテーションを高い精度で実現できるようになりました(図2)。今後、若手外科医の教育や、さらには手術ロボットとの融合によるイノベーションにつながるのではないかと考えています。

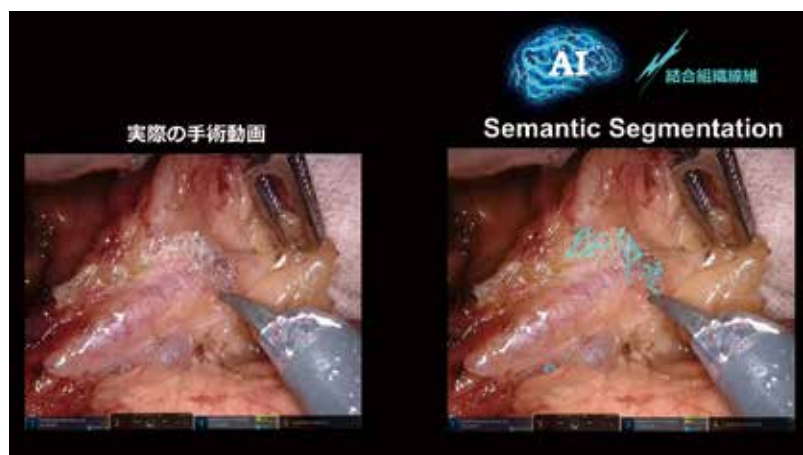


図2 AIによる「臓器の隙間」の自動認識

令和3年度青藍会総会（ハイブリッド開催）

おわりに

徳島大学での解剖学実習で Bursa Omentalis に魅せられた私は、外科医として臓器の隙間に拘り続け、手術を理論的に実施することを目指してきました。本日のお話になんとも興味を持っていただければ幸いです。以上で私の講演を終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。



参考文献

- 1) 篠原 尚, 牧野尚彦 イラストレイテッド外科手術—膜の解剖からみた術式のポイント 医学書院（東京）1994.
- 2) Shinohara H. Illustrated Abdominal Surgery: Based on Embryology and Anatomy of the Digestive System. Springer Nature Singapore Pte Ltd. 2020.
- 3) Shinohara. H, Kurahashi Y, Haruta S, Ishida Y, Sasako M. Universalization of the operative strategy by systematic mesogastric excision for stomach cancer with that for total mesorectal excision and complete mesocolic excision colorectal counterparts. Ann Gastroenterol. Surg. 2018; 2: 28-36.
- 4) Shinohara H, Kurahashi Y, Ishida Y. Gastric equivalent of the 'Holy Plane' to standardize the surgical concept of stomach cancer to mesogastric excision: Updating Jamieson and Dobson's historic schema. Gastric Cancer, 2021; 24: 273-282.



講演終了後の集合写真



告してきました (Blood 1997, Blood 1999)。そして、HM1.24を標的とする、さらなる効果的な免疫療法の開発を、私の最初の研究テーマとさせていただきます。抗体医薬の作用増強のためには、骨髄腫細胞上のHM1.24の発現増強とエフェクター機能の活性化が必須と考え、現在では骨髄腫治療の中心的薬剤である免疫調節薬 (immunomodulatory drug: IMiD) の lenalidomide (LEN) を用いた検討を行いました (PLoS One 2014)。LENは末梢血単核細胞中のリンパ球を活性化させ、そのリンパ球から産生されたインターフェロンが骨髄腫細胞上のHM1.24の発現を上昇させること、およびLENによるエフェクター細胞の活性化はAHMのADCCを増強させることを見出しました。

近年、悪性リンパ腫のみならず骨髄腫においても、抗体医薬を始めとした免疫療法が注目されています。骨髄腫患者では、骨髄腫の進展や治療により、エフェクター細胞の減少と疲弊による機能低下を生じ、免疫療法の効果を減弱させることが問題視されています。このような問題を克服するために、我々はエフェクター細胞に着目した研究も行ってきました。 $\gamma\delta$ T細胞は、ヒトにおいてV $\delta$ 1とV $\delta$ 2に大別され、V $\delta$ 2は末梢血中を流れる自然免疫や腫瘍免疫に関わる免疫細胞です。このV $\delta$ 2 $\gamma\delta$ T細胞は、アミノビスホスホネートとIL-2刺激により効率良く体外増幅と活性化でき、活性化 $\gamma\delta$ T細胞は骨髄腫細胞のみならず、骨病変形成の原因である活性化破骨細胞に対しても細胞傷害を発揮します (Int J Hematol 2011)。我々は、IL-2の代わりにIMiDであるLENやpomalidomideを用いることで、細胞傷害関連因子NKG2DやDNAM-1が高発現している、IFN- $\gamma$ 産生能の高いTh1様 $\gamma\delta$ T細胞を効率良く増幅できることを見出しました (Leukemia 2017)。 $\gamma\delta$ T細胞はFc $\gamma$ RIIIaであるCD16を発現しており、抗体医薬との併用でADCCを発揮で

きることが予想できました。抗骨髄腫抗体として、CD38およびSLAM Family Member 7 (SLAMF7) に対するモノクローナル抗体が臨床応用されています。我々は、これらの抗体の中でも、抗SLAMF7抗体である elotuzumab (ELO) が $\gamma\delta$ T細胞のADCCを発揮できることを見出しております。さらに、SLAMF7に関する研究を進める中で、骨髄腫細胞のみならず破骨細胞においてもSLAMF7が強発現しており、ELOは $\gamma\delta$ T細胞の破骨細胞傷害活性を増強させる結果を得ています。このように $\gamma\delta$ T細胞を中心とする、抗体医薬やIMiDとの併用による新規免疫療法の開発を一層進めていきたいと考えております。

骨髄腫細胞を含む腫瘍細胞では、種々の遺伝子発現異常を認めますが、この異常に関しては、腫瘍特有のエピゲノム制御機構が注目されています。様々なエピゲノム制御因子が存在しますが、骨髄腫においてはヒストン脱アセチル化酵素 (histone deacetylase: HDAC) の治療標的としての有用性が報告され、HDAC阻害薬の臨床応用が進んでいます。HDACは、ヒストンあるいは非ヒストン蛋白を脱アセチル化することで、遺伝子発現あるいは蛋白の安定性や機能調節を行う酵素群です。その構造から、HDACはクラスIからIVに大きく分類され、さらにそれぞれのクラスには、HDACアイソフォームが細分類されています。我々は、骨髄腫細胞におけるHDACアイソフォームの働きを明らかにし、クラスあるいはアイソフォーム選択的な阻害による、副作用を軽減しながら効率良く抗骨髄腫作用を発揮させる治療法の開発のための検討を進めております。そして、HDACの中でも、クラスI、特にHDAC1とHDAC3が骨髄腫細胞の有効な治療標的となることを見出し、骨髄腫細胞の増殖進展に重要な転写因子c-MYC蛋白の脱アセチル化によるc-MYCの安定性に、HDAC3が関わることを報告しております (Leukemia 2017)。HDAC1発現抑制による骨髄腫細胞の遺伝子発現変化を確認したところ、骨髄腫細胞の生存維持に重要なマスター転写因子IRF4の発現低下を認めました。さらに、世界に先駆けて当研究室から報告した、骨髄腫細胞で高発現しているセリンスレオニンキナーゼPIM2がIRF4により制御されていることを確認しております。このように骨髄腫細胞ではHDAC1-IRF4-PIM2を枢軸とする内在的経路の存在がその生存維持に重要と考えられ、さらなる検討を進めております。

PIM阻害薬は種々開発されていますが、我々







---

---

# 青藍会賞募集

---

---

## 2021年度青藍会賞募集

2021年度青藍会賞を下記のとおり募集します。

本賞は青藍会会員による学術研究の発展と奨励のために、若手研究者の優れた業績に対して授与するものです。奮ってご応募下さい。

### 1. 応募資格

2021年12月末現在で42才未満の青藍会正会員  
但し、2021年度までの会費完納入者であること。

### 2. 審査対象

2017年1月から2021年12月までの研究業績を対象とします。  
なお、選考では徳島大学で主として行われた研究であることを重視します。

### 3. 応募締切

2022年1月24日（月）（応募締切り後は提出書類の変更を認めません）

### 4. 応募手続

以下の書類を青藍会事務局へ提出して下さい。（原本とコピー各10部をご用意下さい）

1. 申請書（別紙様式1）
2. 履歴書（略歴）（別紙様式2）
3. 主指導者の推薦状（別紙様式3）
4. 原著論文（2017年1月～2021年12月末に発刊された原著論文；通し番号をつけ、年代の近い順に記載し、主たる論文3編には通し番号に○をつけること。主たる論文は筆頭著者の論文に限定しない。応募者には下線をひくこと。）（別紙様式4）
5. 主たる論文3編の要旨（各400字程度）（別紙様式5）
6. 主たる論文3編の別刷り（コピー可）
7. 競争的資金の獲得状況（2017年1月～2021年12月末までに獲得した研究費の名称、研究期間、研究題目、直接経費の研究費総額。研究代表者の資金に限る。）（2021年12月末時点で採択が決定したものも含む）（別紙様式6）
8. 今後の研究の展望（800字程度）（別紙様式7）

なお、同一推薦人が複数者を推薦する場合は推薦順位をつけること。

申請書等の各様式は青藍会事務局（seiran@tokushima-u.ac.jp）にご請求下さい。

### 5. 選考

青藍会会長から委嘱された選考委員会が行います。

### 6. 受賞者数

原則1名

### 7. 青藍会賞の授与

賞状及び研究助成金100万円の目録を青藍会総会開催日に授与します。  
研究助成金は受賞者あてで教室への委任経理金（奨学寄附金）とします。

### 8. 受賞講演

青藍会総会開催日当日、受賞講演を行っていただきます。（30分程度）

お問合せ先

青藍会事務局 TEL 088-633-7109（内線2601）  
seiran@tokushima-u.ac.jp

---

---

# 青藍会の助成活動

---

---

## 卒後臨床研修センターの活動報告

卒後臨床研修センター長

安倍 正 博 (医学部30期)

青藍会の皆様方には、日頃多くの研修医をご指導いただき、また徳島大学病院卒後臨床研修センターにご支援を賜り、誠にありがとうございます。そして、新型コロナウイルス感染第5波の拡大の対応に各病院が苦慮されている中で、研修医の受け入れやご指導を賜り、まずは敬意と共にお礼を申し上げます。大学病院の研修プログラムは、県外の研修病院や地域の診療所など複数の施設で研修経験を積む、襷掛けの研修を特徴としておりますので、県を跨ぐ研修医の移動の制限などにより大きな影響を受けました。感染対策のために教育講座やセミナーのオンライン形式での開催や、少人数での個別講習の開催などを準備し、また急な研修プログラムの変更に対しても、受け入れ先の確保や調整に当センター教官とスタッフが尽力し、全ての研修医の研修が滞りなく進められていることにも感謝をしております。

新型コロナウイルス感染拡大により、徳島県立中央病院と合同で開催し、多くの施設の研修医や医療従事者が参加していた「メディカルゾーンセミナー」、また多様な領域で活躍している先輩を講師としてお招きし、研修医が講師の先生を囲み直接話をしながら将来像を描いてもらう企画として、毎年9月に行なっていた「学生・研修医のためのキャリアデザインセミナー」などは昨年と同様に中止になりました。各種セミナーやカンファレンスも感染制御部の指導のもとテレビ会議システムを用いたオンライン参加の形式で行うことが多く、研修プログラムのマッチングのための学生との面接もオンラインで行いました。このコロナ禍で、以前のような食事や誕生会などの何気ない集まりが寸断された状態が続いています。医師は人と人のつながりを生業とす

る職業ですが、同級生、同期のこのような対面での何気ない日常の集まり、人と人の付き合い・つながりが、学生の病棟実習や初期臨床研修において、いかに将来の医師としての人格形成に大事であるかということをしみじみ感じております。

徳島大学病院の研修プログラムは、本来各協力病院や診療所、施設との連携を密にし、研修医のひとりひとりの要望に答える形で、各病院の特徴を活かした融合研修を進めていました。このような連携研修を通し、徳島県全体で医師を育てる、“All 徳島”での研修環境を構築し、徳島県の若手医師育成と医療の質の向上に寄与するのが本来の目標でしたので、ポストコロナを見据え、研修医の育成について、もう一度原点に戻り、皆様方と一緒に柔軟に取り組みたいと考えております。今後とも皆様方には卒後研修に対しご理解と共にご指導・ご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



スキルスラボでの研修  
感染対策を施しながら、実技の研修を受けています。

# 徳島大学の動き

## 徳島大学大学院医歯薬学研究部新任教授紹介



徳島大学大学院医歯薬学研究部

腎臓内科学分野

脇野 修 (わきの しゅう)

昭和39年9月20日生

### 略 歴

- 平成2年 慶應義塾大学医学部卒
- 平成7年 慶應義塾大学医学部腎臓内分泌代謝内科学大学院卒業
- 平成9年 医学博士取得（指導：猿田享男）
- 平成11年 米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）医学部留学（指導：Prof. Willa A. Hsueh）
- 平成13年 浜松赤十字病院内科副部長
- 平成14年 慶應義塾大学救急部助手
- 平成16年 慶應義塾大学医学部腎臓内分泌代謝内科助手
- 平成22年 慶應義塾大学医学部腎臓内分泌代謝内科専任講師
- 平成27年 慶應義塾大学医学部腎臓内分泌代謝内科准教授
- 令和3年 徳島大学大学院医歯薬学研究部腎臓内科学分野教授  
（現在に至る）

### 就任のご挨拶

徳島大学大学院医歯薬学研究部腎臓内科学分野  
教授 脇野 修

4月1日土井俊夫名誉教授の後任として大学院医歯薬学研究部腎臓内科学分野教授に着任いたしました。青藍会の諸先生に置かれましてはいつも医局の活動を支えていただき大変感謝いたしております。わたくしは前任地慶應義塾大学では生活習慣病にかかわる腎障害や、腎臓を中心とする臓器連関、末期腎不全患者の栄養に関する基礎および臨床研究を行ってきました。臨床では腎臓内科の医療だけでなく腎不全の危険因子への予防医療や終末期医療である透析医療にかかわりました。徳島大学着任後、病院長の香美教授からは総合腎臓センター構想の実現のご指示を受け、現在透析カンファ、腎移植カンファ、小児腎カンファを始めております。また糖尿病、リハビリテーション科の先生方のご指導で糖尿病性腎症重症化予防のためのパス入院を立ち上げるところであります。病院の医療に貢献できるようシステムを構築中であります。また、院外活動として徳島県内の腎臓病医療を充実させるために、地域の先生方との連携を行っております。阿南医療センター院長の玉置先生からは徳島県内への腎臓病専門医の派遣が急務とのご指導いただきました。自然豊かな徳島県へは家族全員が移住してまいり、当地に骨を埋める所存であります。今後とも青藍会の諸先輩の先生方のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。



徳島大学大学院医歯薬学研究部

遺伝情報医学分野

森野豊之 (もりの ひろゆき)

昭和44年10月22日生

## 略歴

平成6年3月	広島大学医学部医学科卒業
平成6年4月	広島大学大学院医学系研究科内科系専攻入学
平成7年6月	広島県立広島病院（内科）医師
平成12年4月	広島大学医学部内科学第三講座医員
平成12年6月	倉敷平成病院神経内科医長
平成12年9月	翠清会梶川病院神経内科医長
平成13年4月	広島大学大学院脳神経内科医員
平成17年4月	土谷総合病院神経内科医長
平成18年3月	広島大学原爆放射線医科学研究所放射線疫学研究分野助教
平成22年4月	広島大学原爆放射線医科学研究所分子疫学研究分野助教
平成26年6月	広島大学原爆放射線医科学研究所分子疫学研究分野准教授
令和2年4月	広島大学大学院医系科学研究科脳神経内科学准教授
令和3年6月	徳島大学大学院医歯薬学研究部遺伝情報医学分野教授 (現在に至る)

## 就任のご挨拶

徳島大学大学院医歯薬学研究部遺伝情報医学分野  
教授 森野豊之

令和3年6月1日付けで大学院医歯薬学研究部遺伝情報医学分野の教授を拝命いたしました。当教室は病態生理学分野から遺伝情報医学分野へと分野名が変更されました。私は平成6年に広島大学を卒業すると同時に第三内科（現脳神経内科）に入局し、広島大学病院および関連施設にて臨床の研鑽を積んでまいりました。その後、原爆放射線医科学研究所で遺伝学の研究を行い、遺伝性神経疾患をはじめとして麻酔科疾患や歯科疾患の原因遺伝子を解析し、いくつかの新規原因遺伝子を同定してきました。さらに、同定した遺伝子の病因機序を解明するため、CRISPR/Cas9などのゲノム編集技術を応用してモデル動物やモデル細胞を作製し、生化学的および生理学的解析から病態や新たな治療標的を明らかにする研究を行ってきました。また、主に神経変性疾患で孤発例を含む患者集団を用いて遺伝的要因の頻度を調べる疫学的な解析にも携わりました。次々に開発される核酸医薬やがんゲノム医療といった遺伝学的知識のニーズが高まっている昨今、徳島ならびに四国の医療・医学の分野に貢献できるよう全力で取り組む所存です。青藍会の先生方におかれましては今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



徳島大学大学院医歯薬学研究部  
胸部・内分泌・腫瘍外科学分野  
滝沢 宏光 (たきざわ ひろみつ)  
昭和46年11月19日生

## 略 歴

平成8年6月	徳島大学医学部附属病院医員
平成9年4月	高松赤十字病院外科医師
平成11年4月	土佐市民病院外科医師
平成12年4月	徳島大学医学部附属病院医員
平成13年4月	徳島大学医学部附属病院助手
平成13年10月	徳島大学医学部附属病院医員
平成14年4月	町立半田病院外科医師
平成15年4月	徳島大学医学部附属病院助手
平成17年4月	徳島赤十字病院フェロー医師
平成19年4月	徳島大学病院講師
平成28年4月	徳島大学大学院医歯薬学研究部胸部・内分泌・腫瘍外科学分野准教授
平成28年10月	トロント大学胸部外科研究所留学
平成29年4月	徳島大学大学院医歯薬学研究部胸部・内分泌・腫瘍外科学分野准教授復職 併任徳島大学病院がん診療連携センター長（-平成31年3月）
令和2年5月	徳島大学病院病院教授
令和3年8月	徳島大学大学院医歯薬学研究部胸部・内分泌・腫瘍外科学分野教授 （現在に至る）

## 就任のご挨拶

徳島大学大学院医歯薬学研究部胸部・内分泌・腫瘍外科学分野  
教授 滝沢 宏光 (医学部42期)

丹黒章前教授の後任として、令和3年8月1日付で、大学院医歯薬学研究部 胸部・内分泌・腫瘍外科学分野教授を拝命いたしました。青藍会の先生方に謹んでご挨拶申し上げます。

私は平成8年に徳島大学を卒業後、教室の前身である第二外科に入局し、徳島大学および関連施設で研鑽を積んでまいりました。平成28年にはカナダトロント大学に研究留学する機会をいただき、帰国後は徳島大学病院がん診療連携センター長として、徳島県のがん対策事業に関わり、県内の多くの青藍会の先生方と連携して仕事をさせていただく機会にも恵まれました。

私は呼吸器外科および甲状腺外科を専門としており、研究面では特に肺癌の低侵襲治療に関連する診断・治療法の開発に携わっております。今後も患者さん一人一人に最適な治療を提供することを目標として臨床および研究に取り組むとともに、若い人達に外科の魅力を伝え一人でも多くの外科医を育成し、徳島の地域医療にも貢献することができるよう全力で邁進する所存です。

青藍会の先生方には、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



徳島大学大学院医歯薬学研究部  
実践地域診療・医科学分野  
吉川幸造（よしかわ こうぞう）  
昭和51年3月7日生

## 略歴

平成13年3月	徳島大学医学部卒業
平成13年5月	徳島大学附属病院研修医
平成14年4月	愛媛県立中央病院外科
平成15年4月	国立高知病院外科
平成16年4月	香川小児病院外科
平成17年4月	徳島大学病院消化器・移植外科医員
平成21年4月	徳島大学病院消化器・移植外科診療助教
平成22年4月	徳島大学大学院医歯薬学研究部 消化器・移植外科学助教
平成26年4月	徳島大学病院 消化器・移植外科学助教
平成28年11月	徳島大学病院 消化器・移植外科講師
平成29年4月	University of Washington 留学
平成29年7月	Weill Cornell Medicine 留学
平成29年10月	徳島大学病院 消化器・移植外科講師
令和3年4月	徳島大学大学院医歯薬学研究部実践地域診療・医科学分野特任教授 (現在に至る)

## 就任のご挨拶

徳島大学大学院医歯薬学研究部実践地域診療・医科学分野  
特任教授 吉川幸造（医学部47期）

令和3年4月1日付けで徳島大学大学院医歯薬学研究部 実践地域診療・医科学分野 特任教授を拝命いたしました。私は平成13年に本学を卒業後、第一外科（現 消化器・移植外科）に入局し徳島大学および関連病院で勤務してきました。平成17年に本学に帰学後は島田光生教授のもと、上部消化管を専門として腹腔鏡手術および肥満手術を行い、最近ではロボット手術を行っております。

徳島大学と阿南医療センターの連携、手術支援、研修医の効果的なトレーニング、地域医療を担う若手医師育成など微力ではありますが努力する所存です。

青藍会では医学部47期の評議員をさせていただいております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。青藍会の益々のご発展を祈念し、挨拶とさせていただきます。



徳島大学大学院医歯薬学研究部  
 実践地域診療・医科学分野  
**新家 崇義** (しんや たかよし)  
 昭和50年11月17日生

略 歴

- 平成13年 3月 岡山大学医学部医学科卒業
- 平成13年 5月 岡山大学医学部附属病院医員（研修医）
- 平成14年 7月 岡山赤十字病院研修医
- 平成16年 4月 医療法人圭良会永生病院放射線科医師
- 平成18年 4月 岡山大学医学部・歯学部附属病院放射線科医員
- 平成19年 1月 公益財団法人操風会岡山旭東病院 PET・RI センター長
- 平成22年 4月 岡山大学病院放射線科医員
- 平成23年 4月 岡山大学病院放射線科助教
- 平成27年 4月 徳島大学病院放射線部講師
- 平成29年 4月 岡山大学病院小児放射線科講師・科長
- 平成31年 4月 岡山大学病院放射線科講師
- 平成31年 4月 独・ハイデルベルグ大学
- 令和元年10月 川崎医科大学総合放射線医学講座准教授
- 令和3年 4月 徳島大学大学院医歯薬学研究部実践地域診療・医科学分野特任教授  
 （現在に至る）

就任のご挨拶

徳島大学大学院医歯薬学研究部実践地域診療・医科学分野  
 特任教授 新家 崇義

令和3年4月1日付で徳島大学大学院医歯薬学研究部 実践地域診療・医科学分野の特任教授を拝命致しました。この場をお借りしまして、青藍会会員の先生方に、謹んでご挨拶申し上げます。

私は香川県出身で、平成13年に岡山大学医学部医学科を卒業後、放射線診断や放射線治療を学びたいと考え、岡山大学及び関連施設にて研鑽を積んで参りました。平成27年から平成29年の2年間、徳島大学病院放射線部にて勤務させて頂いた後、岡山大学、川崎医科大学を経て、徳島大学大学院医歯薬学研究部に赴任させて頂きました。専門はPET・核医学で、腫瘍核医学や肺移植後疾患の新たな画像診断法の開発研究に主に従事して参りましたが、CTやMRIでの画像診断の診療・教育・研究にも取り組んでおります。良質な地域医療を支える放射線診療を行うためには、専門医の研鑽の継続とともに、若い人材の育成が重要と考えております。放射線診療では全身の臓器を新しい診断・治療技術で診察・治療をすることができる、という魅力を、若い世代の皆様と共有し広めていくために、微力ながら努力して参る所存です。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。末筆ではございますが、青藍会の益々のご発展を祈念し、就任のご挨拶とさせていただきます。

## 徳島大学病院新任教授紹介



徳島大学病院 ER・災害医療診療部特任教授  
板垣大雅 (いたがき たいが)  
昭和49年6月22日生

### 略歴

平成12年3月	浜松医科大学医学部卒業
平成12年4月	浜松医科大学医学部附属病院麻酔科蘇生科研修医
平成13年7月	榛原総合病院麻酔科研修医
平成14年7月	静岡県立総合病院麻酔科医師
平成16年7月	県西部浜松医療センター麻酔科医師
平成19年8月	浜松医科大学医学部附属病院麻酔科蘇生科医員
平成21年3月	浜松医科大学医学部附属病院集中治療部診療助教
平成23年7月	徳島大学大学院医歯薬学研究部救急集中治療医学助教
平成26年4月	米国マサチューセッツ総合病院麻酔科リサーチフェロー
平成28年7月	徳島大学大学院医歯薬学研究部救急集中治療医学助教
平成30年4月	徳島大学病院救急集中治療部副部長
令和2年10月	徳島大学病院 ER・災害医療診療部特任准教授
令和3年4月	徳島大学病院 ER・災害医療診療部特任教授 (現在に至る)

### 就任のご挨拶

徳島大学病院 ER・災害医療診療部  
特任教授 板垣大雅

令和3年4月1日付で徳島大学病院 ER・災害医療診療部の特任教授を拝命いたしました。青藍会会員の先生方に謹んでご挨拶申し上げます。わたくしは、平成12年に浜松医科大学を卒業後、同大学麻酔・蘇生学教室に入局し、10年余にわたり手術麻酔、集中治療の経験を積んでまいりました。平成23年からは徳島大学大学院救急集中治療医学教室にて初代教授である西村匡司先生のもと、重症患者の全身管理に携わり、人工呼吸管理や酸素療法に関する研究に取り組んでまいりました。令和2年からは、徳島大学病院 ER・災害医療診療部の所属となり、救急・災害医療に従事しております。

近年、大規模地震や水害が多発し、新型コロナウイルス感染症の流行は災害級に拡大しております。徳島県においても有事の医療に対する期待が高まっています。徳島県の急性期医療の発展のために微力ながら尽力いたす所存ですので、青藍会の先生方におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



# 準会員だより

## 6年目の新生活

加 島 嵩 之 (医学科6年)

医学部に入学してもう5年が経ち、あともう少  
しで卒業というところまでできました。とても早か  
ったようで思い返してみれば多くのことを学べまし  
た。1・2年生では基礎医学について多くの知識を  
学ばせていただきました。3年生では研究室に配属  
され今まで学習した内容を存分に活かすことがで  
き、テーマに沿った発表も行うことができ6年間の  
折り返しとしてはとても満足しました。4年生では  
臨床系の授業が多く、いよいよ医師になっていくの  
だなと実感し身も心も引き締まる思いでした。5年  
生では実際に病棟で患者さんと触れ合う機会も多  
く、今までは教科書の中だけだったことを実際の現  
場で体験できるということに感動を覚えました。し  
かし、新型コロナウイルスの影響でパソコンを使っ  
た遠隔での授業となったこともあり、患者さんと関  
わる機会が少なくなったものの実際に患者さんを目  
の前にした時にどういのお話ができるかを頭の中  
で想定しながら実習を行いました。6年生では大学  
で学んだ知識以上のことを他の病院で学ぶことが  
できました。そしてマッチング試験も終わり、あとに  
残すは卒業試験と国家試験となり、まだまだ自身  
が知識不足であることを感じながら日々勉強に励  
んでいます。また、新型コロナウイルスのパンデミ  
ックによって、医療の現場は混乱し、私たち学生  
の生活も部活動の制限などのように非常に窮屈な  
ものになっていますが、その中でも勉強・スポーツ  
・遊びをメリハリをつけて行い、医学生としての  
自覚ある生活を過ごしていきたいと思っております  
。これまでのところ、徳島県では幸いにもワクチ  
ンの普及が始まり、感染者は少数にとどまってい  
ますが、今後も感染に対してより一層の注意をし  
ていく必要があると思われま。県外へ行くのも  
自粛せざるを得ない状況で旅好きとしてはつら  
い面もありますが、残り少ない時間の中で、徳島  
の山や海など自然の素晴らしさを再発見したい  
と思っています。これからも新型コロナウイルスに  
対して気が抜けない日々を過ごすことになりそ  
うですが、皆様がお元気で日々を過ご

されることを心よりお祈り申し上げるとともに、皆  
様方の活躍の場が制限されませぬよう願っており  
ます。

## 医学科二年目の生活

姜 泰 成 (医学科2年)



徳島大学医学部に入学して  
から、一年と半年の月日  
が流れました。まだ2年と  
いう入学してあまり長くは  
ない年月しか過ごしていま  
せんが、これまでの医学科  
生活について述べていこう  
と思います。

入学して一年目の時はコ  
ロナが蔓延し始めた年でした。そのため、一年目の  
授業はほとんどがネットを使ったオンラインによる  
ものでした。普段であれば開催されていた授業選  
択のための会もなく、先輩からの授業に関する情  
報なども聞くことができず、進級に対する不安も  
って授業の選択や、授業を受けていた覚えがあ  
ります。しかし、授業を受けていく中で一つ学ん  
だものがあるように思います。それは、勉強に対  
して大切なのは環境よりも、学ぼうとする意志  
を持つことです。たとえ対面であっても、ただ  
授業を聞いているだけでは有意義な時間を過  
しているとは言えません。学ぶ環境が変わった  
からといって学べないわけではないということ  
を痛感したように思います。このことは、二年  
生の勉強に対しても言えることでした。二年生  
の授業は、一年生のころと比べると、本格的  
な医学の授業になりました。身体の生理機能に  
ついて、ほかにも骨や筋肉、神経の名前、機  
能など様々なことについて学んできました。そ  
のどれもが、医学についてまだ何も知らない  
僕にとっては興味深いもので、また理解する  
のに非常に苦勞するものばかりでした。しか  
も、二年時の授業は、オンライン授業ばかり  
でしたので、誰にみられることもないので  
さぼろうと思えばいくらでもさぼることが  
できて

しまいます。しかし、一年生の時に見つけた学ぶ姿勢のおかげで積極的に勉強することができたと思います。

このように、かっこよく日々の生活を書いています。ですが不安に思うことも多々あります。例えば、毎日新しい医学の知識を身に学び身に着けていっていますが、これを将来医師になったときしっかりと役立てられるのだろうか、テストのためだけの勉強になってしまっているのではないか、そういった不安を如実に体感させてくれたのが解剖実習でした。解剖実習では、提供していただいたご遺体を解剖し、身体の構造について学びます。そこで取り出

した神経や血管の名前などが一度勉強したはずなのに分からないといったことがあると将来に対して不安に思うこともあります。しかし、そんな時こそ友人に相談してみたり、ともに勉強することでほかの人も似たような不安を持っているということが分かり、一々下を向く必要はなく、分からなければ調べればいいとより探求心をもって勉強に取り組むことができるようになりました。この先も、似たようなことがあるとは思いますが、環境に流されることなく、日々、探求心と環境に流されず確立した自己をもってこれからも勉強に励み立派な医師になれるよう精進していきたいです。



## 青藍会の動き

### 教授就任のご挨拶



埼玉医科大学医学部教授 総合医療センターリハビリテーション科  
大林 茂 (おおばやし しげる)  
昭和39年2月24日生

#### 略 歴

平成5年3月 徳島大学医学部医学科卒業  
平成5年5月 東京医科歯科大学医学部附属病院脳神経外科研修医  
平成7年7月 武蔵野赤十字病院脳神経外科医員  
平成9年7月 日本学術振興会研究協力者  
平成11年5月 東邦大学医学部第一生理学講座助手  
平成15年3月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科認知神経生物学講座講師  
平成16年4月 (独)放射線医学総合研究所招聘型任期付研究員  
平成18年4月 (独)放射線医学総合研究所チームリーダー  
平成21年6月 日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科助教・医員  
平成27年6月 日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科部長  
平成27年10月 日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科講師  
平成29年7月 獨協医科大学越谷病院リハビリテーションセンター准教授  
令和3年5月 埼玉医科大学医学部教授総合医療センターリハビリテーション科  
(現在に至る)

### 就任のご挨拶

埼玉医科大学医学部教授 総合医療センターリハビリテーション科  
大林 茂 (医学部39期)

令和3年5月1日付けで埼玉医科大学医学部教授を拝命しました医学部39期生の大林茂です。この場をお借りして、青藍会会員の先生方に謹んでご挨拶申し上げます。

私は、平成5年徳島大学を卒業後、東京医科歯科大学脳神経外科講座に入局、大学病院、関連病院で臨床経験を積んだ後、機能回復促進のため脳可塑性に注目し基礎研究に没頭し、独自の機能画像研究領域を開拓しました。

その後、脳外科、神経科学研究の両方の経験が活かせる場として平成21年よりリハビリテーション医学で研鑽を積んでまいりました。リハビリテーション科の魅力は研究成果がすぐに診療応用できることです。リサーチマインドをもった若手の育成に努めてまいりたいと考えております。

卒業後は、両親の実家が徳島大学常三島地区近くに残っている為、お盆の時期には帰っていました。懐かしい蔵本地区を訪れ、バドミントン競技に打ち込んだ希望に満ちた若き日の気持ちを思い出してはパワーをもらい、何よりも会報で同窓生諸氏のご活躍で教授が年々増えるたび鼓舞されてきました。

最後になりましたが、青藍会の益々のご発展を祈念致します。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願ひ致します。

## 病院長就任のご挨拶

### ご挨拶

高知赤十字病院院長

谷田 信行 (医学部28期)



令和3年4月1日から浜口伸正院長の後を受け、病院長に就任いたしました。

私は、昭和57年に徳島大学医学部を卒業後、第三内科学教室に入局、翌年から中村市民病院（現在の四万十市民病院）に3年間赴任しました。その後、第二外科学教室に入局し、外科医に転向しています。当院へは平成7年から3年間赴任後に大学に戻り、平成13年から再度勤務しています。

当院は、南海トラフ大地震に対応できるよう、令和元年5月に新築移転しました。しかし翌年から新型コロナウイルス感染症の影響で、医業収益は減少しています。行政機関との取り決めで、コロナ患者の入院治療は行なわず、専ら三次救急医療機関に徹しているため、いわゆるコロナ補助金の交付は多くありません。

当院は以前、ほとんど徳島大学出身者で占められていましたが、現在は高知大学出身者との混成で、仲良く診療を行なっています。今後とも青藍会の先生方にはご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

### ご挨拶

香川県立白鳥病院院長

西角 彰良 (医学部29期)



令和3年4月1日付けで香川県立白鳥病院院長を拝命いたしました。青藍会の先生方に謹んでご挨拶申し上げます。

私は1983年徳島大学を卒業後、第二内科（森博愛教授）入局しました。高知市立市民病院などの学外出向を除いて、のべ18年半大学内でお世話になりました。2005年香川県立白鳥病院に赴任しました。当院は徳島市と高松市の中間、東かがわ市に位置し、148床の病院です。2010年に現病院に建てかえられました。前病院長坂東重信先生が第二内科から院長となり、27年間務められました。現在は名誉院長としてサポートしていただいております。以前は徳島大学の関連病院として各科の医師の派遣をしていただいておりますが、残念ながら常勤の派遣医師はいなくなりました。少ない診療科ではありますが、地域の中核病院として、急性期医療から高齢者医療まで幅広い診療を行っております。卒後研修、卒前研修では徳島大学、香川大学の関連施設として微力ながら協力させていただいております。現在は新型コロナウイルス感染症の対応、ワクチン接種などに多くの労力を注がねばならず、難しい病院運営を迫られております。

青藍会では医学部29期の評議員をさせていただいており、会のますますのご発展を祈念しています。先生方の今後も変わらぬご支援をお願い申し上げます。

## ご挨拶

国立病院機構徳島病院院長

橋 口 修 二 (医学部29期)



令和3年4月1日より、徳島病院長を拝命しました橋口修二です。青藍会の皆様、よろしくお願いたします。当院は、1939年に傷痍軍人徳島療養所として創立され、1964年に筋ジストロフィー病棟の開棟、80年余の歴史ある病院として、青藍会の皆様に支えられてまいりました。当院は「安全で良質な医療の提供」を基本理念とし、地域医療とセーフティネット医療への貢献が期待されています。政策医療として、四国神経・筋センターの機能を担い、徳島県難病診療分野別拠点病院と徳島県災害医療支援病院の指定を受けています。

人工呼吸器装着の患者さん、いくつもの合併症を抱える患者さんが増加し、急性期病院と密接に医療連携していただいています。筋ジストロフィー患者さんが「一日も早く」待ち望んでいた遺伝子治療も現実のものとなりました。当院は、臨床研究・治験・先進的リハビリテーションを推進し、情報発信力を高め、引き続き徳島大学の医学生実習などにも貢献したいと考えます。

患者さんに信頼される病院として、健全な医療経営、想定外の災害への対策など、事業継続体制に取り組んでまいります。微力ながら、与えられた職務を全うしたい思いですので、青藍会の皆様には、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いたします。

## 園長就任のご挨拶

徳島赤十字ひのみね総合療育センター園長

加 藤 真 介 (医学部30期)



令和3年4月1日に徳島赤十字ひのみね総合療育センターの6代目園長に就任しました加藤真介です。当施設は、昭和34年に県立の肢体不自由児施設（定員40名）として開設されました。日本赤十字社に経営委譲した現在は、医療型障害児入所施設と病院機能を有する社会福祉施設（144床）と、障害者支援施設（50名）が中心ですが、外来での診療・リハビリテーション医療や通所事業も展開しています。開設当初は小児整形外科疾患が中心でしたが、現在は脳性麻痺などの神経疾患がほとんどとなり、18歳以下の方は20%以下となっている一方、外来では発達障害などの方が増えています。

「ひのみね」は父が長く園長を勤め、実家もすぐ近くで子供の頃はよく出入りしていた、私にとっては医師を志した原点ともいえる施設です。徳島大学病院リハビリテーション部教授の任期を3年残しておりましたが、これまでの経験を生かせると考え異動いたしました。

周産期医療の発展や社会情勢の変化により、利用児者像も変わっていきます。これに柔軟に対応して、障害児者のご家族が豊かな生活を送れるように支援していきたいと考えておりますので、青藍会の先生方におかれましてもご指導・ご協力のほど、よろしくお願申し上げます。

## 病院長就任にあたって

徳島県立中央病院長

葉久貴司 (医学部31期)



令和3年4月1日に徳島県立中央病院長を拝命しました葉久貴司です。就任にあたり青藍会の皆様にご挨拶させていただきます。

私は、昭和60年に第三内科（現呼吸器・膠原病内科）に入局し、呼吸器内科医として関連病院に勤務の後、大学にて小倉剛教授、曾根三郎教授のもと研究に従事し、当院には平成17年に赴任いたしました。その年に病院事業管理者のもと地方公営企業法全部適用され、翌年にDPC適用病院となるなど大きな変革期を経て、平成24年の新病院移転により、ドクヘリの基地病院として県下全域を網羅できる救命救急センターとなり、発災時にも基幹災害医療センターとして機能できるように整備されました。大学病院とも連絡橋で結ばれ、大学医局との参加型カンファレンスなど研修医教育をはじめ医療レベルの向上につながっています。

就任早々、新型コロナウイルス感染症の対応に追われ、青藍会の皆様にも大変ご心配、ご迷惑をおかけした事を改めてお詫び申し上げます。現在、救急・災害医療の強化を目的としたER棟の基礎工事が始まり、5疾病5事業の政策医療に特化しつつ、新興感染症に対する診療体制も両立し、重責を全うするよう努めて参ります。青藍会の皆様におかれましては、今後とも引き続き、ご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

# 投稿規定

広報委員会

## ○ 原稿について

- 必ず、文頭にタイトル、氏名・卒業期をご記載ください。  
例 タイトル○○○○○○ 山田太郎(医学部○期)
- 文字数は1,400字以内、写真は1枚でお願いいたします。  
なお、写真には見出しあるいは説明文を必ずつけてください。
- 英数字は半角文字で、カタカナは全角文字で入力してください。
- 原稿の文中に登場する氏名及び敬称については、スペースを入れずに記載してください。  
(例 山田太郎君 高倉健さん 松下幸之助先生)

## ○ 原稿及び写真の送付について (青藍会事務局 seiran@tokushima-u.ac.jp)

- 原稿送付は、可能な限りメール添付または電子媒体にてお送りください。  
プリントされた写真については、郵送にてお送りください。後日、返送いたします。
- 画像ファイルを送付される場合は、**原稿とは別に、JPEG ファイル等でお送りください。**  
原稿 (Word 等) に貼り付けますと、画質が悪くなります。  
なお、画像ファイルの容量が大き過ぎますと届かないことがございます。容量を小さくして1枚ずつに分けてお送りください。また、**青藍会事務局からの連絡がなかった場合は、届いていないことが考えられますので、再度確認のご連絡をお願いいたします。**

## ○ 原稿の締め切り日を厳守願います (次号99号の締め切り日は4月1日(金)です)

会報の印刷および製本には、原稿をお預かりした後、ゲラ刷り作成、校正、修正、編集会議等で2ヶ月ほどの時間を必要といたします。

締め切り日より遅れた場合は、次号の掲載になりますので予めご了承ください。

## ○ 編集作業について

- お送りいただきました原稿は語句などに関して広報委員会で校閲させていただきます。その結果、修正をお願いする場合もございますことをご了承おきください。
- 用語や表記などの統一のために文章に手を入れることがございます。予めご了承ください。

## ○ 原稿校正について

- 広報委員会で会報全頁のレイアウト等を校正後、製本前のゲラ刷りを作成しお送りさせていただきますので、著者校正をお願いいたします。
- 校正時の大幅な追記、削除等は、会報発行期日に影響いたしますので、ご遠慮くださいますようよろしくお願い申し上げます。

## 編集後記

2020～2021年の大きな問題は COVID-19 pandemic です。日本の超過死亡率 (excess death) や強制的ではない mild lockdown が国際的に報告されてきました。本邦の実績に加え、歴史や医学、医療、教育、文化、生活習慣などの要因が議論され評価されています。Covid-19は衆議院選挙や菅義偉首相から岸田文雄首相への移行にも影響したようです。今後、感染症の収束を願いつつ、あらゆる医療状況への対応が求められています。

最近、持続可能な開発目標 (SDGs) がトピックです。SDGs は2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) で、2015年の国連サミットで採択。17のゴールを含み、2030年までにより良い世界を目指します。嬉しく感じるのは、将来を担う小学生の教育現場でも SDGs に沿って議論されていること。SDGs は私が尊敬する日野原重明先生が提唱する Hinohara-ism との共通項も多く、世界平和への貢献が期待されます。

本会報では医学部の内外における様々な話題が紹介されています。荒瀬会長や赤池医学部長、全国の支部長から医療や医学教育の状況や課題が示され、役員会や各委員会はリモートを活用した会議が行われました。学術講演、助成活動、支部だより、会員通信、大学の動きの概要も掲載されています。意義深い98号がお役にたてば幸いです。

板東 浩 (医学部27期)

編集 広報委員 橋本 一郎 (34期) 大塚 秀樹 (40期) 工藤美千代 (33期) 高橋 浩子 (34期)  
田中 克哉 (36期) 板東 浩 (27期) 森岡 久尚 (45期)  
学生委員 倉良 詩夢 (医学科5年) 福本 和生 (医学科5年)

---

---

### 非 売 品

### 青藍会会報第98号

令和3年12月3日印刷  
令和3年12月10日発行

発行 徳島大学医学部医学科同窓会青藍会  
〒770-8503 徳島市蔵本町3丁目18-15  
電話 (088) 633-7109 (内線2601)  
FAX (088) 633-3180 (青藍会事務室)  
E-Mail seiran@tokushima-u.ac.jp  
URL <https://www.seirankai-tokushima.jp/>  
振替 01680-4-8671  
ゆうちょ銀行 一六九店 (169)  
当座 0008671 青藍会

発行者 青藍会会長 荒瀬 誠 治

印刷所 グランド印刷株式会社  
徳島市万代町6丁目20-15 電話 (088) 622-8448

---

---